

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372101390		
法人名	社会福祉法人瑞穂会		
事業所名	グループホームかみさの家 萌ユニット		
所在地	愛知県岡崎市上佐々木町字大官43番地		
自己評価作成日	令和元年 8月13日	評価結果市町村受理日	令和元年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiryousoCd=2372101390-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiryousoCd=2372101390-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和元年 9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域に密着し開かれた施設であり、様々な行事を通して地域と交流を図っている。法人で開催される夏祭り、町内のふれあいサロンへの参加、近隣保育園との交流会、外出時の地域ボランティアとの交流、運営推進会議等を通して、地域に根差した施設として位置付けられている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>就任4年目を迎える管理者の下、2ユニット18名(女性17、男性1)の利用者が満足げな生活を送っている。平屋建てのホームは玄関は勿論、両ユニット扉とも屋外に面した無施錠扉であり、解放感溢れたホームである。特養「やはぎ苑」に併設されたホームで、人事交流を含め行事等も相互の連携で行われている。</p> <p>岡崎郊外の田園地帯に所在しているが、地域との関係は良好に保たれており、運営推進会議にも多数の地域関係者の参加が見られる。会議参加者から、敷地内菜園の年間栽培予定(提案)表が示され、近隣の保育園児を招いて行う「芋堀会」が継続実施されている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとして地域に根差した施設として位置付けられており、利用者様が今まで暮らしてきた生活が継続して行えるような環境作りをし、穏やかな暮らしのお手伝いができるよう努めている。	法人の基本理念「ゆっくり楽しく普通の生活を」を基に、ホームとして「か・み・さ・の・い・え」を頭文字にした6項目の行動指針を定めている。玄関ホールに掲示しているが、職員の共有・実践は確認できない。	理念につながるホーム目標や個人目標を定め、目標に向かって努力する(支援する)ことで、職員が理念との関係性を自然な形で認識できるような仕組みの構築が望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人で開催される夏祭り、町内のふれあいサロンへの参加、近隣の保育園との交流会、外出時の地域ボランティアとの交流、運営推進会議等を通して、地域とのつながりを持つよう努めている。	町内会に加入し、町内会行事には可能な限り参加している。法人(隣接特養地内)主催で開催される祭りにはホームも協賛し、地域と利用者の交流の場として機能するよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭り、ふれあいサロン、近隣の保育園、地域ボランティア、運営推進委員会等を通して、地域との繋がりを持つよう努めている。運営推進会議では、事業所内の状況を報告しアドバイスを得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、施設の実践や問題点を話し合い、施設のサービス向上を目指している。運営推進会議の参加者は施設に興味を持たれており、様々な意見、アドバイスを頂いている。	奇数月に行政・地域代表(町内会・老人会等)・利用者・家族を招いて開催しており、毎回活発な意見交換が行われている。質問等に対しては次回の会議で対応策・顛末を示しており、会議の機能が活かされている。	会議メンバーによる目標達成計画の進捗評価を行い、ホーム運営に対する会議メンバーの参画意識を醸成されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に1度、市の介護相談員の訪問された際、助言や意見を頂いている。また、市の研修や交流会に参加する機会を設け、日頃から協力関係を気付くよう努めている。	市担当課へは必要な都度相談を投げかけており、助言を仰いでいる。運営推進会議には毎回地域包括支援センター職員の参加があり、ホームの実情は伝わっている。訪問調査時に介護相談員の定期訪問があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に職員会議を開催し、身体拘束についての勉強会を行い、職員が理解を深めるよう努めている。それぞれの職員が身体拘束を行ってはならないことを理解し、日々利用者様と向き合っている。	身体拘束廃止委員会を設置し、年4回会議を開催している。内2回は研修を行い、拘束の弊害等について意識を深めている。昨年度の目標達成計画にも掲げており、職員間の意識向上・統一を目指している。	確実に身体拘束等の不適切な支援に対する職員意識は高まっているが、職員間の意識の差は否めない。OJTも活用して、職員意識の向上・統一を図られたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に職員会議を開催し、虐待の種類や虐待に繋がる言動を学ぶ機会を設けている。日々の業務では、虐待に繋がるストレスを軽減する為、他職員と連携し、業務に取り組むよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度等の権利擁護については学ぶ機会が無く、今後職員会議を通して、職員への周知をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時にしっかりと説明をし、ご利用者様やご家族様の不安を取り除くよう努めている。入所後も定期的にご利用者様、ご家族様と話し合いをし、不安や疑問点を迅速に解決できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開催し、ご家族様の意見や要望を聞き入れるよう努めている。ご家族様が面会された時には施設での状況説明を行い、同時に家族の要望を聞く機会を設け、職員間で共有している。	年3回「家族会」を開催し、意見・要望を表出できる場を設けている。約6割の家族が参加しており、多くの質問が寄せられている。ホーム便りを年4回発行して近況を伝えており、積極的な意見集約を心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を開催し、業務についての問題点、改善点を職員同士で話し合える場を設けている。また、職員が意見を伝えやすい環境になっている。	毎月のケア・カンファレンスと併せて業務に対する意見交換を行っており、発言する機会を設けている。家族アンケートには、職員の代弁とも思われる“経営陣に対する意見・苦情”が寄せられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として年に1度の長期休暇(5連休)や、年に6日のリフレッシュ休暇を導入し、職員の体調管理に留意している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を中心に、職員のスキルアップに努め、また、外部研修の情報を提供し、参加の機会を設けている。しかし、外部研修に参加する機会があまり無く、今後職員のスキルアップの為に積極的に参加していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し、情報交換や問題点の話し合いをし、意見を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学に来られた際、ご利用者様、ご家族様のお話をよくお聞きし、不安が無いよう努め、安心して過ごして頂けるような環境づくりに努めている。インテークでは、ご家族様同席の元、ニーズを把握する様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から頂く声に対して、不安を与えないよう注意して対応するよう努めている。また、ご家族様としっかりとした話し合いをし、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様やご家族様が何を求めているのかをしっかりと把握し、適切な援助が受けられるよう努めている。また、24時間シートを活用し、必要としている支援を把握するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、ご自分でできることはご自分でして頂くという環境作りに努めている。洗濯物干しや食器拭き等、一緒に行える家事を、ご利用者様と同じ目線で会話をしながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度、施設から送るお手紙でご利用者様の近況をお伝えし、ご家族様との情報共有に努めている。また、来設時や電話等でお話をし、信頼関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしている物や昔のお話を会話に出し、これまでの生活が継続して送れるよう支援している。また、ご家族様やご友人が面会に来られた際は、安心して頂けるような環境づくりに努めている。	隣接介護施設(特養)からの訪問や知人・友人の訪問を受ける利用者はあるが、自ら訪問希望を訴える利用者は見当たらない。敷地内菜園における保育園児訪問による芋掘りは継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うご利用者様同士で席の配置を考慮したり、職員が間に入ることで会話を継続することができるよう援助し、安心して生活して頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者様やご家族様から相談があった際は、いつでも助言させて頂けるように努めている。また、入所されていた時の記録を保管しておき、すぐに対応できるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴や過ごしてきた時代を考慮しながら接し、希望や意向の把握に努め、豊かな施設生活が送れるよう援助している。	日々の生活の様子は「ケース記録簿」に詳細に記録しており、「意向・要望」を把握した場合にも記載して共有することになっている。しかし、「意向・要望」を把握した記述は確認できなかった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や過ごしてきた時代を考慮しながら接し、暮らし方、生活環境の把握に努め、豊かな施設生活が送れるよう援助している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録の確認やご利用者様とコミュニケーションを図りながら、職員間で話し合いをし、情報共有をしている。また、日中活動に参加して頂くことで見えてくることもあり、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスにて、個々の現状、問題点を把握し、話し合うことで、現状に即した施設サービス計画書を作成している。しかし、ご利用者様やご家族様が話し合いに参加することが無いことが課題である。	計画に基づく評価・見直しは毎月末に行っており、次期更新に活用している。介護計画は概ね6ヶ月毎に更新を行っており、月々の評価と担当者による意見を基にカンファレンスを実施し、次期計画作成に繋げている。	ADL中心の介護計画であり、利用者の思いや意向を叶える介護計画の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録や毎日の申し送りにて、ご利用者様一人ひとりの現状把握に努めている。また、月に1度担当職員が評価をし、施設サービス計画書の作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の体操や合唱、外出支援等を通し、現在の体調や状況に配慮した支援をするよう努めている。外出支援では季節に合わせた場所へ赴き、季節感を味わっていただけるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のふれあいサロンなどの行事には積極的に参加するようにしているが、あまり参加できていないのが現状である。また、地域の社会資源も把握できておらず、ご利用者の豊かな生活の為にも把握していく必要がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的なかかりつけ医への受診、健診を通して、適切な医療を受けられる様、ご家族様と連携し支援している。	ほとんどの利用者は協力医をかかりつけ医に選んでおり、異状がない限り代理受診として2週に一度協力医を訪問し、処方薬を受け取っている。特定の利用者には訪問診察も行われており、一律ではない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護署員や特養の看護職員と連携し、適切な処置や受診が受けられる様支援している。また、定期的な職員会議の中で、身近な疾病に対する勉強会も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは管理者や看護職員、ご家族様が密に連絡を取り合い、治療や退院に向けて、連携するよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様の重度化や終末期のあり方について、施設内でカンファレンスをし、また、ご家族様とも話し合いをし、これからの方針の共有をしている。	入居時に家族を交えて終末期に向けた支援方針を説明し、同意を得ている。隣接特養への転居も有り得るが、移転した例は殆どない。協力医の緊急時対応が期待できないため、看取りは行わないのが実態である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な職員会議で、ご利用者様の急変や事故発生について学んでいる。また、マニュアルを確認し、急変時の対応について備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、災害時に備えている。また、運営推進会議にて避難訓練を見て頂き、助言を頂き、協力体制も築いている	ホーム単独で、夜間の火災発生を想定した避難訓練を実施している。一昨年は実際に夜間に実施し、昼間行う訓練との違いを実体験している。非常食はお粥・カレーを3日間程度備蓄している。	運営推進会議等を活用し、ホームでの防災訓練への地域参加の要請を一層進められたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の人格を尊重し、丁寧な言葉遣いを心掛けているが、声かけが疎かになってしまうこともある為、接遇に留意していきたい。	異性介助を気にする女性利用者に対しては、女性職員が担当するなど、利用者本位に対応している。トイレ誘導の声掛けにも、自尊心や尊厳を傷付けないよう最大限の配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物の1つにしても、職員で一方的に決めてしまうのではなく、ご利用者様が自己決定できるよう、声かけ、見守りをしている。ご自分の意思や思いを表出できないご利用者様に対しては、表情等からくみ取るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や、食事の時間等、利用者様本位のペースで過ごして頂けるよう心掛けているが、職員側の都合で介入してしまうことがあり、ご利用者様の希望に応えられていないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節を考慮して衣類を一緒に選んだり、理容奉仕を利用したり、身だしなみを整える支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様と同じテーブルで職員も食事をし、会話や食事を楽しんでいる。また、音楽を流す等して、穏やかな食事環境作りに努めている。食器拭き等、簡単なものもご利用者様にもお願いをしている。	調理専門職員の配置は無く、職員が交代で献立作成から食材発注、調理に当たっている。誕生日には好みを聴き出したり、季節に応じて特別食を提供したりして、食べる楽しみを胆嚢してもらえよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事形態や食事量、水分量を提供している。食事量や水分量は、毎回記録に残している。食事量や水分量が少ないご利用者様は、食事形態を変更したり、介入する等し、摂取して頂けるよう援助している、		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は口腔ケアが行えていないが、起床時、就寝時には、口腔ケア、義歯洗浄を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声かけをし、排泄パターンや排泄間隔を把握出来るよう努めている。	「ケース記録簿」に日々の排泄状況を併記しており、時間、自立・誘導の別、大・小の別等が一目で判読できる。入所して改善した例は見受けられないが、自立排泄の継続に向けた支援が続いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分量、運動量等を考慮し、個別に排便コントロールをしている。排便が出ない日が続くと、体操、腹部マッサージ、下剤等を用いて、排泄できるよう援助している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に声かけをし、意思や意向を確認し入浴して頂いている。入浴を拒否されるご利用者様には、気持ちよく入浴して頂けるよう、声かけ等に配慮している。	概ね週2～3回の入浴を基準にしている。檜風呂が設置されているが、経年劣化により傷みが激しく、取り換えを申請中。隣接する特養の機械浴を利用することも不可能ではないが、利用している実態はない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、適度に休息時間を設け、夜間帯も良眠できるよう環境作りをしている。居室にはご利用者様の馴染みのものが置いてあり、安心して休息して頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は職員がしっかりと名前を確認した上で手渡しをし、用法、用量を守り服薬支援している。処方箋の用紙を薬入れに貼り、内容が確認出来るように工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様にその都度何がしたいかを聞き、状況に合わせて対応するなど、日々の活動にバリエーションを持たせている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が穏やかな時期は、月に1度外出支援をし、気分転換を図っている。また、散歩の希望があった際は、出来る限り対応するようにし、ご利用者様の意思を尊重している。	夏季以外の気候が穏やかな季節には、近在の公園等へボランティアの協力の下に外出している。また、概ね月1回、レク担当職員の計画により郊外の観光施設への外出を実施しており、利用者の笑顔こぼれた写真が掲示されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事務所で金銭管理をしており、行事や外出の際や、日用雑貨購入時に使用している。職員と一緒に買い物に行く機会も作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日中の時間帯であれば、ご利用者様の希望に合わせて、ご家族様に連絡をしている。また、月に1度、担当職員からご家族様へ、お手紙にて近況報告をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁紙や飾り等で、季節感が出せるよう工夫しており、ご利用者様と一緒に飾りを作っている。室内温度はご利用者様に合わせて、空調やカーテン等で管理している。	木造平屋建て(一部2階)で、高い天井と明るくゆったりとしたリビングを中心とした共有空間の居心地は快適なものと感じられた。掘り炬燵やウッドデッキも設置されているが、物置き場や物干し場に利用されているのが悔やまれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者様を同じテーブルにしたり、共用で使用できるソファを置く等して、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の居室は、昔の写真等で飾り付けしており、安心して過ごして頂けるよう努めている。また、家具もそれぞれ持ち込んで使用することで、これまでの生活を継続することができるよう努めている。	各居室はベッド・クローゼット・洗面台が備え付けられている。利用者の要望に応じて、介護ベッド・低床ベッド・ベッドなし等の変更が行われており、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるよう、居室ドアに名前を貼ったり、トイレの方向を示した張り紙をする等している。また、安全に生活して頂けるよう、障害物は導線から除去するよう努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372101390		
法人名	社会福祉法人瑞穂会		
事業所名	ぽかぽかユニット		
所在地	愛知県岡崎市上佐々木町字大官43番地		
自己評価作成日	令和元年 8月13日	評価結果市町村受理日	令和元年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2372101390-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2372101390-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和元年 9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域町内会の集会への参加、保育園園児との野菜作りやお遊戯会を通じた交流、月間行事に老人クラブのボランティア協力等が得られおり、地域に根付いた施設として認識して頂けている。町内会からの発信で近隣住人との親交も深まっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご自分の家で生活している様な環境作りと、利用者様一人一人が安全で穏やかに生活できる様な支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の集会(ふれあいサロン)やお祭りなどに参加したり、近隣の保育園園児との野菜作りをして交流の場としている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人主催のお祭りや、外出の付き添いなどで地域の方々に参加頂き、利用者様との交流を通じて認知症の理解や地域との繋がりに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に会議を開催し、地域の方々にも出席頂いている。出席者様には施設の現状や問題点を確認して頂き、改善策などの意見を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に一度、介護相談員の訪問があり、意見やアドバイスを頂いている。また、市主催の研修や交流会に参加する機会を設けて関係作りに努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人にて委員会を設けている。委員会から、職員会議で身体拘束の勉強会を行い、職員の意識向上やケアの確認を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で委員会を設け、勉強会を行っている。勉強会後は、各部署ごとで勉強会を行い、利用者様主体の業務になるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に活用されているご利用者様もみえる為、会議の場において学ぶ機会を設けていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、1つ1つ確認をしながら説明し、納得された上で署名・捺印を頂いている。また、改定等あった際は家族会や手紙にて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や定期的実施している家族会にて、意見や要望を聞く機会を設けている。面会簿にも記入欄を設け、意見交換に活用している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2、3か月に1度、職員会議を開催し、業務などについての問題点、改善点を職員同士で話し合える場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に関する支援や情報提供を行っている。年に1度の長期休暇や、年に6度のリフレッシュ休暇取得を継続して実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を中心に、職員のスキルアップに努めている。また、外部研修の情報を提供し、希望者や、内容に応じて参加の機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム小部会やブロック会議に出席し、情報の交換や問題点を話し合い、勉強会を通じて意見を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークではご家族を交えて情報収集を行っている。また、ご本人と個別で面会して、本音やニーズを引き出せるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークではご家族様を交えて情報収集を行っている。また、ご家族様とも個別で面会して、本音やニーズを引き出せるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後1ヶ月は「24時間シート」を作成し、利用者様の生活の状態を観察し、その方の必要な支援を見極める様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干しや洗濯物たため、食事の準備等の日常生活でのご本人の出来る能力を見つけ、共に行っていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回手紙を送付し、利用者様の日常や変化等の近況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や知人の面会、手紙や電話での連絡は積極的に受け入れ、関係の維持に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性や難聴、認知度を考慮した席を配置し、円滑なコミュニケーションが図れるように職員が間に入ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人様やご家族様から相談があった際は、いつでも対応できるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にコミュニケーションを図り、利用者様の何気ない表情や言動を感じ取り、把握するように心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との会話も含めて、ご家族様からの情報やカルテ等の資料を参考に、生活歴や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録の確認や利用者様の日々のコミュニケーションから、個々の現状把握に努めている。また、個人で得た情報は、毎日の申し送りや職員間の話し合いで情報の共有化に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に1度、もしくはご利用者様に変化があった際は、その都度カンファレンスを実施し、介護計画書の見直し、作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に記入して、職員が目を通しやすいようにして、情報の共有を図っている。気になることがあれば、その都度すぐに話し合いの場を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の体操、日々のレクリエーションによる生活リハビリ、季節ごとの外出行事を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の「ふれあいサロン」などの行事には可能な限り参加させて頂いている。外出の際は、地域のボランティアクラブに依頼をかけ、付き添いの協力をして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医に受診し、適切な医療を提供できる様にご家族様との連携に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	処置や受診が必要な際は、看護職員もしくは、併設の特養看護職員と連携して対応している。高齢者に多い疾病に関する勉強会も行っていく予定である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が窓口となり、情報交換や相談に応じている。また、その内容を職員が共有し、退院が決まり次第カンファレンスを行い、退院後の生活が円滑に送れる様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が変化した場合は、早急にカンファレンスをご家族様とも実施して、利用者様の環境整備や支援方法を検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルに沿って、勉強会を実施している。合わせて、マニュアルの見直し、作成も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地震や火事を想定した、避難訓練や消火訓練を実施している。訓練の様子を運営推進委員会で見てもらい、災害時の備え等のアドバイスを頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇スキルを磨いて、一人一人の人格を尊重して接する。ご本人様のプライドを傷つけないように接することを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人様が自己決定して頂きやすい様、会話を大切にし、声かけや質問方法を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	縫い物、塗り絵、折り紙等、利用者様個々が希望、得意とすることを行って頂けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容の実施、または、着替えの際にご本人様と相談しながら好みの服装を選んで着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや片付けを職員と一緒に、利用者様が出来ることを手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	なるべく、一人一人にあった食事形態や量を提供し、または介入することで、必要摂取カロリーと水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後、就寝時に歯磨きや義歯洗浄を実施し、口腔内の清潔保持に努めている。口腔洗浄には歯ブラシ以外にも、洗浄スポンジや舌下ブラシを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握し、個々でトイレ誘導及び介助を行っている。排泄用品もご本人様の尿量や生活習慣に合わせて決めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確保、適度な運動、腹部マッサージを行い便秘の解消に努めている。食事には果物や食物繊維の多いものを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の体調に合わせて個々の希望に沿うように入浴を実施しているが、午後の限られた時間内での実施となっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の状態、状況に応じて時間帯を問わず休息できるようにしている。また、居室内の快適な室温湿度を管理している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様個別に薬ケースに、処方箋と共に保管して管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の体調や気分を見定め、何がしたいのかを聞き出すことに努めている。また、家事などをお手伝い頂き、労をねぎらうことで生活にハリを持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	穏やかな気候の時期には、月に1度、地域のボランティア様の協力を得て、外出支援日を計画し、実施している。日常で散歩の希望があれば、付き添いや見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常は事務所で金銭管理を行っている。日用雑貨や消耗品の買い物は、利用者様と一緒に買い物へ出かける機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	夜間の遅い時間帯でない限り、利用者様の要望に合わせて、ご家族様へ電話が出来るようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、季節を感じられる貼り絵を利用者様と一緒に作成し、掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の位置はなるべく気の合う方同士になるように配慮している。共有スペースには各所にソファを設置して、気軽に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や日用品、嗜好品等を持参して頂き、ご本人様が居心地よく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、随所に手すりが設置されている。また、導線上に障害物が無いように整備し、歩行器や車いすでもスムーズに移動ができる様になっている。		